

令和元年度第3回 恵那市男女共同参画プラン推進委員会【要約】

日時：令和元年9月30日（月）午後2時00分～午後4時00分

場所：恵那市役所 西庁舎3階 災害対策室B

-
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 議事
 - (1) 女性活躍推進計画（素案）の検討
 - (2) 女性活躍推進事業の検討
 4. その他
 5. 閉会のあいさつ
-

■出席者及び欠席者

	氏名	性別	選出団体等	出欠席
1	坪井 弥栄子	女	恵那市地域自治区会長会議	出席
2	伊藤 正明	男	「男女のわ」ネットワーク	欠席
3	亀井 邦子	女	「男女のわ」ネットワーク	出席
4	太田 礼子	女	まちづくり団体（えなナリワイプロジェクト）	出席
5	村松 訓子	女	恵那市教育委員会	出席
6	秋山 真一	男	恵南商工会推薦企業（明知ガイシ株）	欠席
7	奥村 ひとみ	女	中津川人権擁護委員協議会 恵那市地区部会	出席
8	紀岡 伸征	男	恵那市社会福祉協議会	出席
9	曾我 守一	男	恵那市PTA連合会	出席
10	伊東 靖英	男	恵那市壮健クラブ	欠席
11	成瀬 あい	女	恵那市国際交流協会	出席

1. 開会

■事務局（進行） 資料の確認をする。3点ある。会議次第、資料1、資料2。

定刻となった。村松委員が遅れるという連絡があったが、始める。私は本日司会をする企画課の柘植です。

本日は伊藤正明委員、伊東靖英委員、秋山真一委員が所用のため欠席の連絡があった。本日の会議は恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき、公開とする。会議録も公表する。本日の委員会は4時までに終わりたい。

2. 会長あいさつ

■会長 9月末だがまだ暑く、半袖を着るか長袖を着るか迷った。日曜日には運動会があり、台風の影響で午後から雨でプログラムが大幅に変更された学校もあったが、一日天気子どもたちは楽しんだと思う。

今日は第3回の会議に出席いただきありがとうございます。これまで2回のワークショップで皆さんから出た意見を基に、女性活躍推進計画の素案を作ってもらった。手元に配布している。素早く作ってもらった。皆さんの意見をいただき完成させたい。

■事務局（進行） 議事進行を会長にお願いします。

3. 議事

(1) 女性活躍推進計画（素案）の検討

〔事務局から資料に基づき説明〕

■会長 今までのワークショップの意見を一覧表にさせていただきそれを基にプランに入れ込んで新しいものができた。意見があればどうぞ。

3ページのキャッチフレーズで、「話し合い支え合おうよ、我が家も恵那も」というところに、サブタイトルをつけたらどうかという案が出ている。「誰もが生き方と働き方を選択できるまち恵那」と。

■事務局 女性活躍推進計画のキャッチフレーズと書いて、並べたい。

■会長 こういうのをつけてもいいか。

で、この「(案)」を消していただきたい。

自分が発言したことがこの中に入っていないということはないか。ワークショップの中の意見には今までの男女共同参画プランの中に入っていた言葉もたくさんあったので、その中で新しいものが出たものをこの中に入れていただいている。

■太田委員 女性活躍推進法の趣旨を把握しきれてなくて、今見ると、女性の就業生活における活躍で、女性の活躍というのは仕事上での活躍がメインで話し合ってきたと思うん

ですけど。あと、資料2の3ページのP18の赤線のところで、最後の方の「女性の職業生活における活躍の推進に向けた啓発を行う必要があります。」は、企業に対して啓発するということか。

■事務局 P18は施策の方向1-1で、全体になる。男女平等、男女共同参画に関する意識啓発という項目で、市民一般もそうだし家庭・学校などもそうだ。

■太田委員 7ページの①で、実践的な内容を検討しますとあるが、計画に「検討します。」という書き方は妥当なのか。

■事務局 「内容を実施します。」の方がいい。

■太田委員 話し合うだけで終わるといけないのでその方がいい。

■会長 7ページのP28(1)の子育てに対する支援体制。「これまで以上に子育て支援のための取組が求められます。」とあるが、まずは恵那市内のこども園で定員が充実してないところがたくさんあるので、その辺をもっと充実してもらえると良い。企業が一生懸命働く女性を増やそうと思っても預けるところがないということになってしまうので。保育士を充実するとか市の体制をしっかりともらえば、働く親は安心して働ける。どこに書いたらいいか分からないが。子どもを安心して預けられる体制を充実することも必要だ。公立も私立も、定員が満杯というこども園はないと思う。特に10月から無償化されるともっと預ける人が増える。そうすると人材不足になる。はっきりは書けないが、充実しますということをうまく書いてほしい。

■事務局 はい。

■会長 前回の話にあった、企業内の託児所や保育園を作ってほしいというのもここに入っている。1つの企業ではできないが2つか3つの企業で託児所を作るといいということもあったができれば公立のところ安心して預けられるのではないか。女性にとっては子どものことが一番大変だと思う。

■曾我委員 初めて参加したので、全然分からない。大事だということは分かるが、僕も看護師をしているので、職場は女性が多い。今は施設にいるが前は精神科にいたので、そのときは女性よりは男性の方が多かった。女性がしっかり働ける場も必要だし、育児ができる。この病院のときは保育所などがあったので、女性はすごく楽だったと思うが。難しいが、男も女も関係なくてというのがいいのかな、やりやすい場所を作っていくかといけないのかなと思う。

■成瀬委員 私も4月からの参加で3回目ぐらいだが。ワークショップ2回の内容が反映されていていい。特にいいのは7ページ、項目を1つ増やしたいということで、女性の職業生活における活躍に関する支援体制という項目を入れるのはいいことだと思った。

■村松委員 男女共同参画プラン30ページの(3)、「高齢者や障がい者(児)への支援」と書いてある。3行目は「高齢者、障がい者が」となっている。障がい児を含めてという

ことなら「(児)」を入れていただきたい。

■会長 「(児)」を入れてほしい。

■事務局 はい。

■奥村委員 女性活躍推進法ということで、それに特化されたところだけをプラスされたということがよく分かって、よくまとまっていると感じた。キャッチフレーズが、誰もが生き方と働き方を選択できるまちが女性の活躍推進に当たるのかな、これでいいのか？と思った。女性活躍推進だから女性がということだと思うが、キャッチフレーズは誰もがというのは、どうなのか。

■会長 ぼけてしまうかもしれない。

■奥村委員 「話し合い支え合おうよ、我が家も恵那も」はぼんやりとした、みんな仲良く話し合っているまちなしというキャッチフレーズなので、女性の活躍の方のキャッチフレーズは多少はっきりした方がいいと感じる。

■委員 私は「誰も」の方が好きだ。好みもあると思うが、私自身が、今子育て中の母親や女性に向けた活動をやっているが、結局最終的には、女性がどうこうではなくて、この辺に住んでいる人たち誰もがそうなればいいという気付きが最近あって、このキャッチを読んだときには私がやりたいことと一緒にと思った。でも、確かに、女性活躍推進計画に沿ったものかということ、広すぎるかもしれない。

■会長 男女共同参画プランというのを作ったときは、誰もがという、とにかく話し合いが大事だということで、このキャッチフレーズを作ったが、その中にも男性の視点、女性の視点という意味で、区切られた言葉があった。4ページの中にも、女性・男性双方の視点に立ってというのがあった。それは男性も女性もなくしてさまざまな視点から市政やいろいろなことを考えていくということに今度置き換えられた。あまり女性に限るとまたそれが差別だとも考えられる。奥村委員の言われることはよく分かるが、できたとき、それを恵那市全体に広げていくとき、女性活躍推進法に基づくプランとしてしまうと、それが強すぎて、じゃあ女性がやればいいのかということになってしまう。誰もがの方が一般的な広い意味になるとも思った。皆さんのご意見を伺いたい。

■奥村委員 女性の視点というのが引っかかって意見を出したものが直っているので満足だ。今、話を聞いていて、「誰もが生き方と働き方を…」という、男性の支援も必要だというふうにとると、誰もがというのが通ってくる。「誰もが」が最初に来るのではなく、「生き方と働き方を誰もが選択できるまち」と後ろに持ってくる方がいいと思う。

■会長 その方がいい。

■紀岡委員 キャッチフレーズについては奥村委員の意見がいい。

7ページの子育てに関する支援体制も、坪井会長の意見のように、企業だけではなく態勢がしっかりできるような内容で表現していただく方がいいと思った。

- 会長 オブザーバーの意見をいただきたい。
- 加藤オブザーバー これからこれに基づいて具体的な施策ということになる。これに対してこの先のということになる。具体的な施策を行う中で、視点が、女性活躍のために女性はあるべきだということになってしまったら良くない。せっかく「さまざまな視点で」という言葉が出ている。さまざまな視点というのは、違いを認めた上で誰もが働きやすかったり地域で幸せに暮らしたりするにはどうしたらいいかということもついていくと思うので、お仕着せではなくて、ここに参加する恵那の市民が、自分たちで考えて自分はどうしたいという、自分だったらこうした方がいいという自由な意見が出るような、考えるきっかけになるような施策を行なっていただきたい。
- 吉田オブザーバー 前回と前々回のをうまくまとめていただいている。文字にしたときにあまりごちゃごちゃして見る気が失せるといけないので、一つ大まかなのがあってというのでいい感じになっている。
- 亀井委員 一つ聞きたい。10月から保育料が無償になる。それで、たとえば長島こども園は地元だが、上限が240人だけど今は160人。で、今まであそこは2段階になっていて、早く帰る子と、母親が仕事を持っていて遅く帰る子がいる。今まで短い時間子どもを預けていたけど、そういうふうは無償化するなら時間を長くして自分は仕事したいという人たちがいると聞いた。だけど、保育士がいないとか。あれは募集をかけている、待っているのか？ だけど来てくれる人がいないということか？ それは募集の条件が厳しいのか。資格を持っていればいいのか。
- 事務局 資格があればいいが、各自治体で取り合いになっている。条件がいいところに人が流れる傾向がある。賃金、処遇の比較になる。
- 亀井委員 私の知っている人も、月水金だけ9時から4時まで保育士として働いている人がいる。そういう人たちもあまり扱わないのか。
- 事務局 できる限り、特に園長経験者で退職して自由な先生などは、ある程度スポット的に、常勤の先生が休まれたときや、手がかかるときに頼んだりすることはあるが。特に今こういう社会だと、愛知県などは条件がいいので、短大卒業してもまず愛知県に就職したりする。
- 亀井委員 若い人がなかなか戻ってこないし絶対数が足りないということか。
- 事務局 そういうこともある。
- 亀井委員 保育士だけでなくほかでもそういうことがある。
- 事務局 ある。
- 会長 大学で保育科があるところは強い。瑞浪は中京があるので瑞浪の保育園に。未満児を扱おうと思うと先生1人に子ども何人と決まっている。未満児ではなく年小、年中、年長のところは大体入っている。未満児保育が足りない。

隠れ待機がいる。恵那市は0人と言いつながら、もしできれば入れたいという人は多くいる。そういうところを充実することが大事。

■亀井委員 資格を持っていてもそういう実態を知らない人たちがいるし、そういう人たちに知ってもらって、眠っている人たちを発掘できるといい。

■吉田オブザーバー 県の保育士の組合が一生懸命やっけていて、眠っている人が就職するとその人にお金をあげるとか、そういうのがある。

■事務局 今度、武並こども園で、保育の現場見学会みたいなのをハローワークでやる。

■吉田オブザーバー 休んでいた人が復活することによって2年間賃金を上乗せするとか、やっけてはいるけど、でも絶対数が足りない。一度やりたくないと思った人はなかなかやらない。

■亀井委員 きつい仕事なので、もうちょっと労働の内容を、時間を短くして、シフトにしてやっけていくとかするといい。若い母親たちは子どもを預けて外に仕事に行きたい。私たちの世代でも、1日4時間で週3回とか、そういう人たちを大勢でやるとか。そうしないともったいない。

■太田委員 補助はないのか。学校の支援員みたいに、資格はないけど先生のサブで入るとか。

■吉田オブザーバー 保育園にはそういう人もいる。けど、本来の保育士よりは賃金を下げることになる。そうすると職種と比べると、低賃金の割に大変ということになる。

■会長 眠っている人材もあると思う。

全体を通して、今の意見を2、3追加していただければそれでよいか。

■委員 よい

(2) 女性活躍推進事業の検討

■事務局 こういうプランを作っただけで終わってはいけないので、来年度以降、これをまずやってみたらどうかというところの目星や、具体的なやり方、内容を一緒に考えていただきたい。

この中にも取り組みを加えた部分もあるし、前回は1グループでは具体的な内容が出ていた。そういうところも参考にしながら、自由に発言していただければ、事業の組み立ての方で参考にしたい。

■会長 この計画を推進するために何が必要か、何をしたらいいか。予算要求もしなければならぬので。意見があればお願いしたい。

■委員 女性活躍推進事業とはたとえばどういうものか。

■事務局 今まで事業をやっけていくときには、男女（ひと）のネットワークの力を借り

て、少人数での講演会などもやっていただいていたが、ああいうことで、大々的に女性活躍をするための講演、セミナー、集まってワークショップでどういう生き方、働き方をしたいか検討するとか、男性の家事能力をアップするための料理教室をやってアミックスに撮影してもらい番組で流すとか。そういう具体的な取り組みの意見をいただきたい。

事務局としては、国が「おとう飯（はん）」、男性がご飯を作ることの推進をしていて、自治体の男性首長がご飯を作ることをして啓発している。そういうことも取り組むと女性の家庭での負担が減る。そういうものを恵那でも、市長の施策でも「はたらく・たべる・くらす」というのをやっている中で、そういうところとタイアップして「おとう飯」の取り組みを恵那市でもやってみてはどうかという話をしている。

■会長 前にひとのわネットワークで男の料理教室を武並公民館でやった。結構、参加して楽しんでいかれる。各地域のPTA会長に集まってもらってそこで「おとう飯」をやるとか。

■事務局 そういう場に出てこれないという意見もあったのでそれを番組にして1カ月など流してもらおう。やったことで意識はどう変わったかというインタビューも含めて番組にするとか。

■奥村委員 募集をかけて得意料理があるお父さんにテレビ出演を勧めたらあるかもしれない。

■事務局 また、今までやってなかった人を集めてみんなで作ることをして、やらなかった人が1人でもやれるようになればいい。

■太田委員 市がやるのではなく、委託で出したりできるか。

■事務局 できる。

■太田委員 恵那市主催より団体主催の方がいい。そうすると主催団体が自分ごとになるのでピーアールもする。先ほどのご飯を作るのも、若い人はキャンプも好きなので、そういうのもやったりしても面白い。

■会長 恵那市中から募集するのは大変なので、ナリワイとか、自分たちが知っているグループを採用してそのメンバーが務めてくれるというのを3つぐらいやっていけば、恵那市主催で1つやるよりも広がる。そうすると話はずむと思う。奥さんがグループ員でその旦那さんたちが来てやると、後からも、その後どうということ聞ける。

■事務局 それも一つの案だ。

■紀岡委員 出前講座で新しい計画の説明をして料理の指導もするといい。PTAや保護者会でお父さんたちが集まったところに出向いてやるといい。その世代が一番やってほしいのだと思う。

■会長 このダイジェスト版を配りながらすると良い。このダイジェスト版は作り直すのか。

- 事務局 データとしては作り直さないといけないと思っている。
- 会長 立派なものでもなくてもいい。ここに切り貼りできればそれでもいい。概要だけをここに載せていけばいいので。これを配って説明すればただ来て食べるだけよりいい。ほかにはないか。
- 奥村委員 プランの一番最後で、暮らしビジネスサポートセンターに女性のサポートをする相談対応とか書いてある。これも具体的に進めていってはどうか。
- 会長 1カ月に1日ぐらい入れてもらえるといい。
- 委員 これはすぐできることだと思う。
- 吉田オブザーバー 私ごとだが、ハローワークに来るのがめんどくさいと思っている人がいれば、子どもを持った母親が集まる場所があれば、うちからも出張相談で、頻繁には行けないが、やれる。
- 奥村委員 うちもできる。ちょうど午前中に出ていって子育て支援のサロンをやっている。子育て中の母親と0歳から3歳の子どもと一緒に、今日は25人ぐらい。子ども込みで。今日はスタッフも私たちの年代が12人ぐらい今日は入っている。そういう場に来てもらうといい。話を聞くと自営業の人が多。その時間だけ抜けてくる。全く働いてない人もいる。今日は、動物病院の先生に来てもらって、ネコや犬の飼い方などの話をしてもらった。おもちゃがあるので、託児専門のスタッフを有償で頼んでその人たちに子どもの守りをしてもらっている間、母親たちが話を聞ける。来年度からでもいいのでやるといい。月に1回やっているのをお願いしたい。
- 事務局 お母さん同士ですでにネットワーク、コミュニティーができているところの方が、来てもらったときに話題にもなると思う。
- 吉田オブザーバー それは何回も同じ人が集まるのか。
- 奥村委員 大井町にかわら版という広報があり、それで呼びかけている。来る人は毎月、楽しいから友だちを誘って来たという。資料だけ配るといってもいいと思うが。
- 太田委員 乳幼児学級もある。でも数が多くなる。
- 事務局 今は出張で来てという話があると言っているのか。
- 吉田オブザーバー 以前に恵那にいたときは何回か行った。ここのところは恵那では全くなかった。ただ、特にいつと決めてそこに行ける人員で行くことはできる。
- 事務局 広報でも、ハローワークの出張相談を、申し込みをうちでもいいので受けて、行ってもらうとか。また、すでにある団体で申し込みされた場合はそこへ行っていただいとということもいいかもしれない。
- 太田委員 今すぐにプランは出せないが、講演会でなくて、皆さんが話し合っ、自分の生き方や働き方を探っていくようなワークショップをやりたいと思う。それがターゲットが私たちの層なのか、もっと若い学生たちなのか分からないが。何かしらかわりたい。

あと、男女で役割のギャップがあるという話。妊娠期の両親学級というのはやっているか。

■事務局 やっている。

■委員 その1コマで入れてもらうとか。先輩のうまい夫婦に来てもらって話してもらうとか。仕事を続けていきたい女性、働きながら子育てしている夫婦を講師に呼んで。一方的に話すだけだと、あの2人だからうまくいっているという感じになるので、そこも夫婦で話し合っただけで機会を設けたりするのもいいと思う。それを進行する人には技量が要ると思うが。

■事務局 健康推進課や子育て支援課でたまご学級やパパママ学級というのをやっている。そこに投げかけてみる。

■会長 恵那ぐらしサポートセンターで、月に1回、来年度から女性の日というのをもし設けていただければ、そういう中で、初めのうちはみえなくてもだんだん広がって行って仕事したい人がみえたりすれば、ハローワークからもそこへ来てもらって、やっていくといい。月曜日でもいい。営業日だと邪魔になるので。

■事務局 どういうやり方にするかだけだと思うので、すぐにでもできる。

■会長 営業日だと、空き家バンクなどでしっかり話をしたい人もあると思うので、休みの日に開けていただくとか、女性の日で午後1時ぐらいからとか。

■太田委員 2階の部屋ならいつでもできる。

■事務局 女性向けの再就職セミナーは去年からやっており、去年だと3回やっているが、内容は託児付きで自分らしい働き方を考えるというのと、メイクアップを学ぶという2部構成。託児の関係で定員が10から15名だが、毎回10名以上申し込みがある。文化センターでやっている。そこから個別で相談したい人はサポートセンターに来ていただいて、指導員、支援員が相談する。今提案いただいたことはやることは可能だ。

■会長 じゃあピーアールが足りないということか。知る機会がない。

■事務局 年3回やって10名が違う人が来るのか。

■事務局 同じ人はあまりいない。

■成瀬委員 子どもが小学校でチラシをもらってくる。だから恵那市は全部もらっている。

■太田委員 そこから再就職はあるのか。

■事務局 結構ある。

■加藤オブザーバー 僕は詳しく把握していないが。

■事務局 各地で取り組んでいる団体があるのなら、そことも連携しながらやった方がいい。

■加藤オブザーバー 若い人向けに働くということに関して、一般でも学生向けのワークショップも言ってあったと思うが、それは面白いと思う。今、高校生向けに企業説明会をしているが、生徒が今後どういうふうに人生を生きていくかを考えるワークショップをや

って、それを地元の企業に参加してもらってもいいし、難しかったらそれをフィードバックしてもいい。そうすると企業も採用や育成に行かしていけると思う。

■会長 いろいろ案が出ている。それほど予算の要るものではないので検討してほしい。

■村松委員 若い人に向けては、再就職などを支援できれば良いと思うけれど、50代になると介護の問題に直面する。私の周りも、親が80代後半になっていて、一番の課題であり、常に話題になる。まだ50代は夫婦ともども仕事を持っていて、定年まで数年というところで、両親の具合が悪くなるという問題が来る。夫婦両方の親が一度に要介護になって、分担を毎日あたふたこなしている。そういった、退職前の人対象のセミナーなり介護なりの催しものを追い追い考えてもらえると良い。

■会長 高齢福祉課とも相談を。介護しながらヘルパーさんを使って働き続けられる世の中がいい。そのために退職するのではなく、組み合わせをしながら。要介護になればデイサービスにも行けるしヘルパーも頼める。組み合わせを上手にしながら、1週間に1日は休むとかしてできれば。

■紀岡委員 介護離職での社会的損失も大きい。社会福祉協議会でも、ケアマネの事業所の職員が講師になって、特別会費をいただいている企業に対しては、従業員が介護で困っていたらどうするかという出前講座をやるということを案内している。依頼はまだ来ていないかもしれないが。

■会長 介護保険を申請するかしないか。私も「知って得する介護保険」というのを4カ所ぐらいで社協に頼んで話を聞いた。その中で50代、60代、70代の人たちが目の前に迫っているので、質問をされて、安心したということもある。そういうセミナーもこの中に入れていけるといい。社協はもっと大々的にピーアールするといい。

■紀岡委員 段階を追ってやる。

■会長 聞いてよかったという団体が結構ある。

■紀岡委員 あと、ふれあいいいききサロンにも案内を出している。順に広く行けるように。当事者と、今後親をみるという人を。当事者にならないと、そのときにならないと真剣に考えない。常日頃から少しでも耳にしておくステップが踏める。

■太田委員 介護も子育てと似たようなところがある。家にいたいのか働きにいきたいのかというところで選択を迫られる。私の友人が義理の父の介護がそろそろだということで、彼女が家で看たいと言い張っているので働きにはいかないという選択をしたらしい。介護の方も家でみたいから離職するという前向きな人と、離職せざるを得ない人がいると思う。メンタル的にすごく違う。せざるを得ない人向けの救済があるといい。

あと、何が知りたいかは当事者でないと分からない。ああいうことが知りたいということとを事前に伝えておくとセミナーがそれなりに企画されると思う。

■会長 社協のケアマネは何でも答えてくれる。話を聞くと安心するというのがある。

子供のことと介護のことが出たがほかにはないか。思いついたら事務局に言ってほしい。

4. その他

■事務局 当初の予定では、計画の大幅な見直しがあった場合は10月に会議を予定していたが、それはなしにしてもよいか。

[「異議なし」の声あり]

■事務局 では今日の意見を反映してあとは会長と相談し、計画類の見直しの際は1カ月程度パブリックコメントをとる必要があるので、11月をその期間として、そこで出た意見も踏まえ、最終形を見ていただく会を、12月初旬に開催したい。日程は後日改めてお知らせする。

■会長 進行を事務局に返す。

5. 閉会のあいさつ

■事務局 長時間熱心な議論をありがとうございました。これで終了する。

[閉 会]